

恐ろしく多数であつたのだから、それからモット役の叛亂の時、若し十分團結して一舉に主人側を襲撃したち、遙かに成功の機會が多かつたに相違ない。

是等の事實に依つて、此の大奴隸時代の全歴史を察するに、生産形式の轉換する機運がまだ熟してゐない時に、階級關係を變化させようとする事の、如何に不可能であるか分る。即ち社會的及び經濟的形式の史的發展が新しい進路を指示し、一般人心が知らず知らずそれに向ふ時でなければ、改革の到底行はれない事が分る。

五 奴隸制の衰滅

斯くて奴隸生産が盛んになり、富が増大するに従つて、正しい勞働が耻辱になつて來た。例へば羅馬のアントナイス時代に於いて、シンシナタスのような大將軍が戰場から歸つて來て、故郷で田園生活を送る事は全く不可能であつた。若し苟くも凱旋將軍たる者がそんな見苦しい眞似をしたら、それこそ阿呆タワケとして一般から嘲かれたであらう。當時に於ける勞働に對する觀念は、丁度今の倫敦に於けると同じで、只だ苦しい賤しい事に時間をつぶすとしか思はれなかつた。又奴隸生活は自由民の獨立勞働と競争してそれを押し潰したので、丁度、後世の米國南部の奴隸制の間に於ける自由白人と同じような一階級を生じた。總ての大都市（殊に羅馬）には其種の人民が多かつたが、彼等は幸ひに政治上の權利だけは持つてゐたので、それが爲に權力者にチャホヤされて、其の養ひを受けてゐた。然し奴隸生産がいつまで永く其の暗黒面を社會に向けずにはゐなかつた。此の消耗

的の耕作法は餘ほど早い時代からモウ實際に伊太利の土地を占してゐた。羅馬は今や全く其の食物の供給を外國に仰ぐに至つた。そして其の住民は、富者も貧者も一樣に、若しエジプト或は黒海からの穀物船の到着が天候の爲に豫定から後れた場合には、氣が氣でないほど心配するのであつた。其の有様には恰かも今の倫敦人が、佛蘭西の巡洋艦が小麥を満載した汽船をアイルランドの沖で喰ひどめたと聞き、又ニューヨーク或はオデッサからの穀物船が英吉利海峽を通過する事が出來ないと聞いた時、直ぐに少しく不安を感じるのと同一であつた。

此時以後、羅馬は其の奴隸生産と混亂雜沓の人民とを擁して、純然たる富と奢侈との世界市場となり、又地球上の各方面から貢物として富の血潮を吸ひ取る大蝙蝠となり、恰かも今日の倫敦若しくは英國に彷彿してゐた。そして其の帝國も、其の文明も、其の富も、其の榮譽も、其の繁昌も、悉く皆な牛馬のような奴隸が幾代も幾代も希望なしに苦役して、自分は只だ纔かに饑渴を免れつゝ、他人の爲に富を作り出だした其功に歸せざるを得ないのであつた。史上豈に之ほどの偉觀があらうか。歐洲の一端から他端に通達して今も猶ほ存在する（當時の伊國兵の自由勞働に依つて作られた）其の大道を見よ。又其の整齊完美にして、曾て何者も其の判定と報復とを免れ得ざりし行政組織を見よ。又其の領土内に於いては、宿怨ある諸帝王が權勢爭奪の流血を現出するとも、何等表面の靜穩を破るに足らざりし其の太平の衆を見よ。又其の無數なる公設の大工事が、堅實にして而も壯麗にして、近代の最も優秀なる専門技師すら猶ほ其の空前絶後の大技術に對し感嘆の眸を凝すを見よ。又其の軍備が有らゆる點に於いて完全を極め、戰勝は寧ろ當然の事體と認められ、たま／＼敗